



ブラウンバックセミナー
Brown Bag Seminar

2021.7.14 (水)

日
同時通訳
英

オンライン
(Zoom)
技術支援
九州大学 Q-AOS & TEMDEC
録画期間限定公開

12:10
12:50

12:10-12:15 紹介
12:15-12:40 プレゼン
12:40-12:50 質疑応答

海を観る：どうして & どうやって

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)

海についてあなたが思いつくことは何でしょうか？ 漁業？ 海辺のレジャー？ 海上輸送？ 海底資源？ 津波？ 海面上昇？ それとも気候変動やマイクロプラスチックでしょうか？ このように海洋科学には、幅広い分野が関連しています。その海を「知る」ためには海洋観測が必要で、通常は船で行われてきました。しかし、広大な海をカバーするには船舶観測は少なすぎます。この講演では、今世紀になって広域の海をどのように測定するようになったかを紹介します。一方、極域・深海・沿岸地域は、観測がまだ難しい領域として認識されています。沿岸地域は陸地から近く比較的簡単にアクセスできるのですが、現象が小さくて変化が速いため、捕捉することが困難です。さらに、領海内の海洋データは非公開となることがよくあります。このため、観測の国際的なネットワークを確立するには、新しい試みが必要となってきます。この件に関してもお話していきます。



市川 香 准教授

九州大学 応用力学研究所・総合理工学府
大気海洋環境システム学専攻環境計測学

市川香先生は京都大学・理学部卒業後、英国ウェールズ大学海洋学部にて修士号を、京都大学理学部にて博士号を取得。愛媛大学工学部助手を経て、1997年より九州大学応用力学研究所の准教授に着任しました。また、2000年から2010年までは国立研究開発法人海洋研究開発機構の研究者も兼任されました。市川先生の研究は主として人工衛星や海洋レーダ等のリモートセンシングのデータ解析により、沿岸域・縁辺海などの「空間スケールが小さく、寿命が短く、また現場観測が難しい」変動を計測し、「これまで見えなかったモノを見る」ことで新たな海洋学的な知見を得ることを目標にしています。

Key Words "海洋の役割" "観測システム" "領海"

登録はこちらから
https://temdec-med-kyushu-u-ac.jp:zoom.us/webinar/register/WN_B71_mHRgSWuhERXvMqUktg